

## &lt;農業生産法人、集落営農組織の育成に取り組む事例&gt;

## ○集落営農で「楽しく・元気に・頑張ろう」

## 1. 集落協定の概要

|                 |                                  |             |          |            |
|-----------------|----------------------------------|-------------|----------|------------|
| 市町村・協定名         | 岡山県高梁市 <small>たかはしし なか</small> 中 |             |          |            |
| 協定面積<br>16.2 ha | 田 (29%)                          | 畑 (36%)     | 草地 (35%) | 採草放牧地 (0%) |
|                 | 水稻                               | タマネギ, 自然薯   | 牧草       |            |
| 交付金額<br>142万円   | 個人配分                             |             |          | 40 %       |
|                 | 共同取組活動<br>(60 %)                 | 農道・水路等の維持管理 |          | 32 %       |
|                 |                                  | 共同機械の購入     |          | 9 %        |
|                 |                                  | その他         |          | 19 %       |
| 協定参加者           | 農業者31人、非農業者1人、集落営農組織1組織          |             |          | 開始：平成17年度  |

## 2. 取組に至る経緯

当地区は天水田が多いことや、農業者の高齢化が進んでいることから水稻栽培の継続が困難となり、今後、耕作放棄地の発生が懸念されていた。

そこで、耕作ができなくなった場合や作業委託を希望する場合に、集落営農組織で栽培管理を引き受ける体制整備が必要と考え、集落で話し合いを重ねてきた。その中で、水田のみでなく集落内に多い畑地も集落営農組織で守るべく、経営の多角化についても検討を進めてきた。

その結果、当集落協定と隣接協定の参加者等で平成 21 年 2 月に集落営農組織「雲海ファームふか」を設立した。

## 3. 取組の内容

「雲海ファームふか」は「楽しく・元気に・頑張ろう」をスローガンに、農用地の有効活用及び共同作業による農地荒廃の防止並びに地域の活性化を目的としている。

水稻の作業受託のほかに、タマネギ・ジャガイモ・自然薯の栽培に取り組むとともに、一般農作物の作付けが困難なほ場では、組織内に酪農家がいることから草地として牧草の作付けを行うなど、農地の有効利用について工夫を図っている。

また、平成 21 年度から県の委託事業でヤギの放牧による農地の法面管理や耕作放棄地解消を行っている。除草効果は牛に劣るものの、法面を崩さない、給水施設の整備が不要など優れた面を確認するなどヤギ放牧技術の普及に貢献している。



【集落営農組織による作業(タマネギ)】



【ヤギの放牧による農地管理】

#### [集落の将来像]

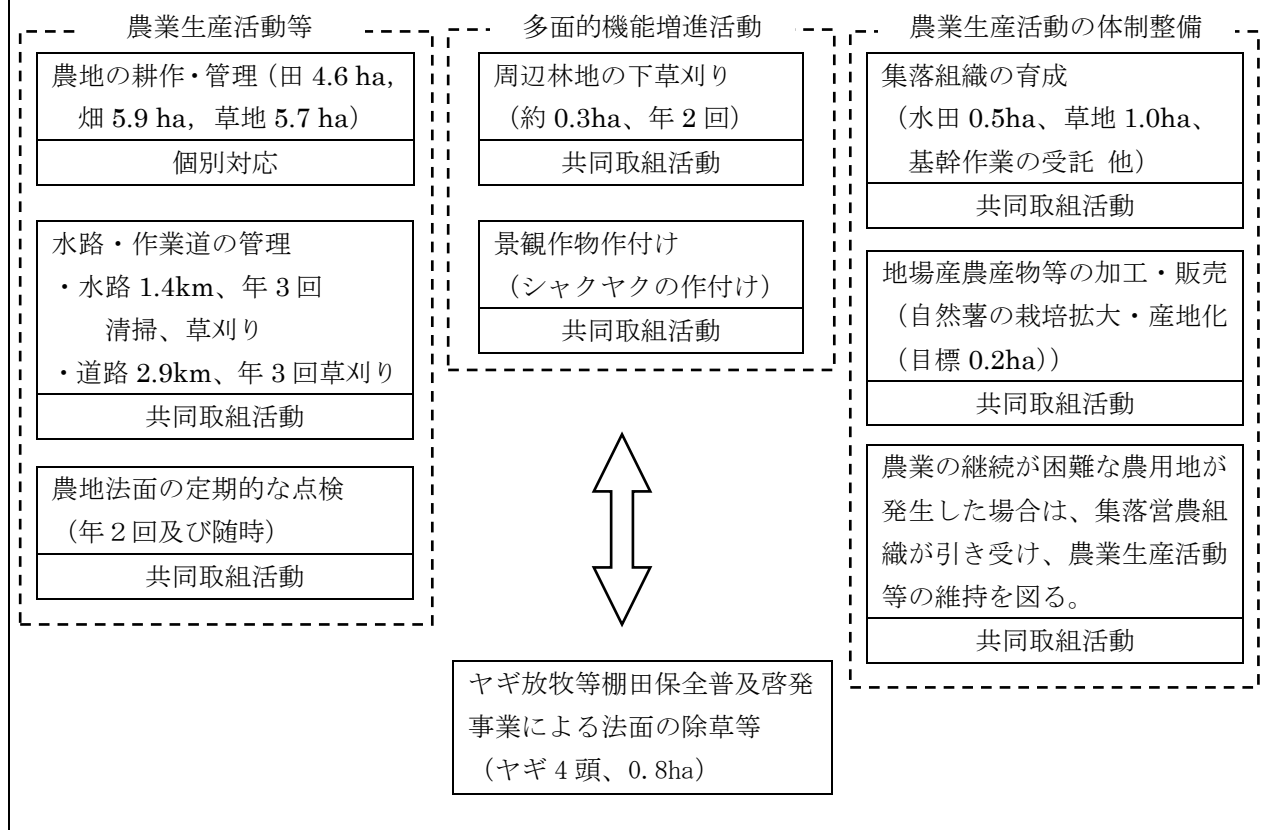
集落営農組織による農業生産活動、地域の実情に即した農地の有効活用等を継続的に実施する組織的な体制の整備

地場産農産物（自然薯等）の加工・販売による農業所得の確保、その継続的な取り組み体制の整備



#### [将来像を実現するための活動目標]

- 機械・農作業の共同化等営農組織の育成、地場産農産物等の加工・販売  
共同で支え合う集団的かつ持続可能な体制整備



#### 集落外との連携

獣被害防止として、隣接の集落協定との連携による電気柵の設置、維持管理を行う

#### 4. 今後の課題等

集落の農地を守り地域を活性化するため、さらに集落が一丸となった組織体制を整えていく。

また、将来の集落営農組織の法人化に向け、地域内で具体的な検討を進めていくとともに、組織継続のため次世代リーダーの育成を行う。

#### [第 2 期対策の主な成果]

他の集落協定と連携して集落内を電気柵で囲い、共同で維持管理を行うことにより獣被害が低減した。